

牛群検定通信 No166

～ 栄養管理と観察方法（2） ～

12月号に引き続き、栄養管理と観察方法についてのお話で、今回は牛舎で直接活用できる技術、牛の見方についてのお話です。では、牛が健康で儲けを生む牛の状態を把握するためには、どのような方法でどのような観察を行えば良いのでしょうか。私の考えるチェックポイントは次のとおりです。

- ボディコンディション（肉付き）・腰角・座骨・肋骨・横突起・胸垂
- 体表面・毛艶・毛色・斑紋とフケ・けん部・蹄冠・乳房の色・目
- 臭気及び体温

まず始めに、肉付きの見方です。肉付きは腰角の前側と後ろ側、肋骨や横突起及び胸垂の状況で判断しますが、腰角、座骨、肋骨などが丸くなって骨が見えないというのは論外です。丸くなって骨が見えないということは皮下脂肪が骨を覆っているということで、何度も述べているように太っているだけで健康ではないからです。また、太っていることで微細な変化を読みとることが出来ません。牛を健康に飼い、無駄のない飼料給与を行うためには、骨の様子がはっきり分かるという事が前提であり、特に座骨に丸みがあってはなりません。座骨に丸みがある時は、腰角も丸く、肋骨も見えないからです。

肉付きをチェックする時は、各部位（腰角、肋骨、横突起）毎に骨と皮との間の厚さを次の4段階で見ます。

- ① 皮が骨にぴったりついている
- ② 皮と骨の間にシート1枚ぐらいの皮下脂肪がある
- ③ 皮と骨の間に毛布1枚ぐらいの皮下脂肪がある
- ④ 皮と骨の間に布団1枚ぐらいの皮下脂肪がある

そしてそれぞれ①は1、②は2というように点数を付け記帳していきます。慣れてくれば、2と3の間で「2.7」など自分の感覚で小数点を付けることも出来ます。また、その見え方ということも重要となってきます。鮮明にはっきり見える場合と痩せてはいるが輪郭が鮮明でなくボヤッと見える場合は状況が異なります。もちろん鮮明に見える方が良く、ボヤッと見える場合は太り始めているか、体調の悪いときです。更に、痩せてるといっても病気でコツコツに痩せ、皮毛がバサバサに立っているような牛は良い状態であるとは言いません。そして、この点数を個体毎、部位毎に定期的に記帳することが重要です。そうすることにより、牛が今太っているのか痩せてきているのか、どちらの方向に進んでいるのかが分かります。

肉付きを腰角、横突起、肋骨の3ヶ所で観察する意味は、①の状態から②～④の状態へ変化していく時に、皮下脂肪が付き始める順序が違うからです。その違いを理解しておくことで、牛がどのような段階にあるのか推察でき、①の状態であった牛が太り始めるときに、まず始めに腰角の前の部分が少し丸くなってきます。その後、腰角の頭頂部、腰角の後ろ側という順番で丸くなってきます。腰角の後ろ側が丸くなり始める頃から、横突起の骨と皮膚の間にほんの少し厚みができてきて、腰角全体が少し丸いなど思い始める頃には肋骨にも皮膚との間に皮下脂肪が感じられるようになります。このように太り始めるときにも順番がありますので、観察をしっかり行い、栄養過多や栄養不足になっていないかを早めに知り、対策を講じることが重要です。

（渡邊）